

令和7年度 地域循環共生圏づくり支援体制構築事業

中間共有会 発表資料

活動団体の本事業での活動テーマ

『サスティナブルツーリズムを取り入れた滞在型観光の促進—環境・観光・子育て教育・定住を統合した取り組み』

活動団体の活動地域：北海道豊富町

活動団体名：豊富町観光協会

中間支援主体名：北海学園大学

活動・支援スケジュール

■ スケジュール

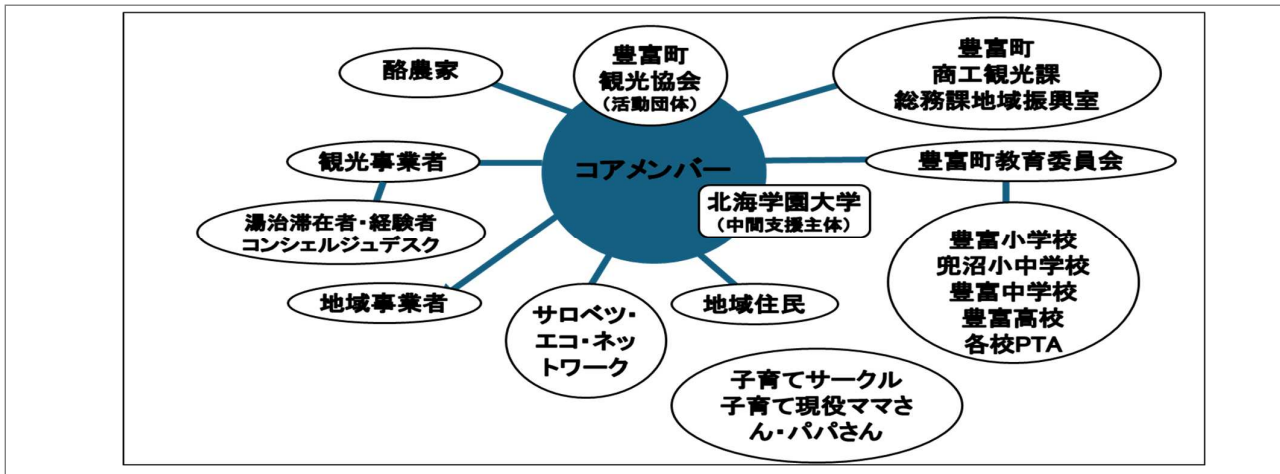
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
プラットフォーム構築のための取組【活動団体】			◆第6回未来会議の開催				◆第7回未来会議の開催				◆第8回未来会議の開催	
	コアメンバー打合せを開催（オンライン）											
ローカルSDGS事業創出に向けた取組【活動団体】		◆第5回未来会議イベント（テントサウナ）の開催（5/17、豊富）			◆大学生の地域インターンシップ受入（8-9月）							
					若者による豊富町でのインターンシップ活動							
中間支援主体の支援・取組計画		◆イベントでのファシリテーター役と講師の提供 ◆関係先との調整、協力依頼		◆派遣大学生への面接と事前説明				◆地域づくりの視察				
	コアメンバー打合せの同伴支援											

備考（補足説明など必要な場合は記載）

・豊富町でのインターンシップ活動を9月8日～9月19日の期間にて実施、【豊富町まち・ひと・しごと創生総合戦略】策定に伴う事業者ヒアリングや産業体験、地域交流活動を実施

“地域プラットフォーム”のイメージ

”地域プラットフォーム”のイメージ



地域プラットフォームの特徴

- ・ 地域プラットフォームには、豊富温泉やサロベツ湿原などの観光事業者、飲食業や酪農業などの地域事業者、小中高校の教育関係者、子育てサークル、役場の担当者などが参加している。
- ・ 参加者の大半は30～40歳代であり、現役の子育て者が多い。また、男女比がほぼ均等である。
- ・ 中間支援主体には、北海学園大学の教員と大学生が参加している。
- ・ 湯治をきっかけに移住した方が多く、個人で店舗を営業しているひとが多い。

3

地域プラットフォーム構築のために取り組んだこと

取組①『第6回 ワクワクとよみ未来会議』

【活動内容】

昨年度（1年目）の活動内容の振り返りと今年度の取組について地域の方々と共有した。
今年度は改めて解決したい地域課題や事業化へ向けた取組の精査した。
将来へ継続していくための取組方法の検討および継続した仲間づくりへの取組を実施した。

■プログラム

- ・ 昨年度事業の振り返り
- ・ 豊富町の10年後予想について
- ・ グループによるワークショップ

テーマ1：改めて解決したい地域課題について

テーマ2：課題解決に向けて、事業として考えられるものは何か

テーマ3：令和8年が事業最終年としてどのように事業化していくのか

【工夫した点、がんばったこと】

- ・ 日中仕事の方や、朝・晩仕事の酪農家の方等が混在しているため、本企画へ参加しやすいように 昼の部・夜の部と2部構成にて実施した。

【成果、やってよかったこと】

- ・ 事業立案とまではいかないが、今後見込めるアイデアを多数得る事ができた。
- ・ 2部構成にしたところ、参加者に属性の違いがあり解決案が明確に異なることも分かった。
- ・ この未来会議の開催により、地域の方々の町内課題に対しての意識付が着実に進んでいるように見える



【中間支援主体による支援】

見立て：事業の担い手を「面の状態」に拡張するためには仲間づくりが課題であり、「未来会議」への参加者を増やすことが活動団体で自覚された。
また、率直な意見交換の場を引き続き設定し、プラットフォームを形成していくことが必要である。

打ち手：同じ内容のワークショップを昼夜2回、別会場で開催した。
また、率直な意見を交換するために、大学生2名にテーブルのファシリテーターを務めてもらった。

4

地域プラットフォーム構築のために取り組んだこと

取組①『第6回 ワクワクとよとみ未来会議』



前年度の振り返り（昼の部）



グループワーク（昼の部）



前年度の振り返り（夜の部）



グループワーク（夜の部）

5

ローカルSDGs事業創出に向けて取り組んだこと

ローカルSDGs事業①『テントサウナイベントの実施』

【段階】

計画・構想 / 試行・試験 / 実践

【事業概要（地域の課題や事業のねらい）、進捗状況】

日本最北の温泉郷である「豊富温泉」は大正15年5月17日に開湯し、令和7年を以って99周年を迎えた。この記念日を迎えるにあたり、前年度事業で開催したワクワクとよとみ未来会議およびインターンにて豊富町に滞在した大学生より、豊富温泉でテントサウナを活用したイベントを実施し、地域活性化につなげていきたいとの提案のもと開催した。

また、豊富町の豊かな森林資源を活用し、テントサウナで薪を使用し発生する暖炉エネルギー（自然再生エネルギー）への知見を深めることや、サステナブルツーリズムの取組へと昇華させることを目的とした。

【活用している自然資本・地域資源】

- ・豊富温泉地の活用
- ・サウナストーブ燃焼のため枯れ木等の森林資源を活用

【事業により生じたor 生じそうな成果、環境・経済・社会の循環】

- ・豊富温泉での新たな体験、滞在型商品の造成による来訪者増加や滞在日数の増加等経済効果の上昇
- ・自然エネルギーの活用等による知見を深める教育への活用等



【中間支援主体による支援】

見立て：「サステナブルツーリズムを取り入れた滞在型観光」の事業のタネを具体化し、ローカルSDGs事業を創出する必要がある。

打ち手：昨年度の「ワクワクとよとみ未来会議」で出された大学生からのアイデアを活かし、5/17に豊富温泉開湯99周年事業として「テントサウナイベント」を開催した。企画内容の協議や広報、運営などを地域の住民や大学生が協働して取り組んだ

6

ローカルSDGs事業①『テントサウナイベントの実施』



サウナ休憩スペース



テントサウナ



自然の中でのハンモック



特製サウナ飯とドリンク

前期の振り返り

	【気づき、発見】	【課題】
地域プラットフォーム構築	・属性によって同じ内容でも課題解決案が明確に異なることが分かった。 ・小さな地域でよくある外部者に対する抵抗感や不信感が払拭されてきた。	・町役場との協力関係の強化（対話の機会の増加） ・地域内と外部との協力・信頼関係の更なる構築が必要
ローカルSDGs事業創出	・テントサウナ事業の展開へ予想以上に期待が持たれている。	・広報PRの強化が必要 ・設置可能箇所が少ない（過去の実例が無いため、理解が足りない。実績作りが必要）



【後期がんばりたいこと、工夫したいこと】

- ・地域課題の解決に向けた取組の強化・スピードアップ
- ・関係各所との課題の共有化、意見交換の場の増加
- ・協力体制の強化（現地活動スタッフの増員、気軽に相談し合える関係性作り等）
- ・最終年度（3年目）に向けた活動方針や事業化・継続方法の策定

前期の振り返り（活動団体に対して発揮した中間支援機能）

【プロセス全体を俯瞰して、中間支援のポイントだったと思うこと（見立て・打ち手）】

- ・「第6回ワクワクとよみ未来会議」（7/23）では、同じ内容のワークショップを昼夜2回、別会場で開催したところ、夜の参加者は、仕事終わりや湯治滞在者が増え、これまでの参加者層とは異なる意見交換が行えた。
- ・テントサウナ（5/17）では、参加者からのアンケートを実施し、満足度と要望を集約し、今後のイベント開催に向けてノウハウを蓄積できた。

【活動団体の変化】

- ・ワクワクとよみ未来会議のイベントへの住民の参加層を広げることができた。

【中間支援主体としての変化】

- ・イベントの企画会議で、物事を整理する、意味づける、見通しをつけるという機能を意識的に話し合い、準備を進めた。
- ・大学生がイベントの企画立案や運営に携わることで、よそ者の視点で地域づくりに関わった。

【後期どのような中間支援をできるといいか、していきたいか（見立て・打ち手）】

- ・「現在地を確認する」ために、本事業の最終ゴールを年度内に設定していく必要がある。
- ・イベントなどで先進事例の紹介や、SNSなどで地域内外に情報発信していく。

参考情報

活動団体の目指す地域の姿

■ 地域循環共生圏の構築を通じてありたい地域の姿

ありたい地域の姿は、子どもたちがワクワクする地域を築き、継承していくことである。地域課題を克服する視点は、①**観光産業の拡大と閑散期の解消**によって雇用の創出、地域資源を活かした地域経済循環の強靱化、②**コミュニティでの対話の場づくり**、③**教育や子育て**において外部からの刺激により、子どもたちの地元愛を育む、である。

■ 地域に必要なプラットフォームの体制や仕組み

町内には、本事業に関わる観光や教育子育ての分野において、事業者やNPOなどの「点」は20～40程度存在している。**とよみワクワクの会のイベント開催**を通じて、これらの「点」を「面」に広げていく。将来的には地域おこし協力隊制度等を活用し、活動団体内部（または外部）に**コーディネーター**を設けることを目指す。

■ ローカルSDGs事業として取り組む内容

本事業のイベントやワークショップ等での議論から生み出されていくものである。活動団体が実現したい事業は、豊富町との関わりを深めてもらい、また、住民にとっても持続可能な地域づくりにつながる、**地域活動への参画や交流等を行うプログラムの企画運営**である。。

■ 地域の現状と課題

豊富町は、急速に進展する少子高齢化や地域の人口減少、経済の縮小という過疎問題に直面し、地域課題の解決に向けて地域産業の創出と維持発展が欠かせない。主要産業の観光業は**通過型観光**であり、宿泊者数の増加、冬期の閑散期の解消が課題である。その打開策が、地域資源を活かした**ワーケーションや湯治といった滞在型観光**の潜在的な掘り起こしである。地域資源には、アトピーに効能があるとされる豊富温泉や雄大なサロベツ湿原などの自然資源、様々な分野で活躍しているヒトや団体があり、地域循環共生圏の素地は十分に有している。

3 力年状態目標

■ 2026年度末の状態目標

【活動団体】

- ・大学生等が参加するサスティナブルツーリズムを取り入れた滞在型観光の事業を実装する。
- ・プラットフォームに参加しているステイクホルダーのつながりを維持・発展させ、地域循環共生圏づくりを継承していく。

【中間支援団体】

- ・サスティナブルツーリズムを取り入れた滞在型観光の事業の実装に向けて支援を継続していく。
- ・大学教育として中間支援者の育成プログラムを運用していく。

■ 2025年度末の状態目標

【活動団体】

- ・サスティナブルツーリズムを取り入れた滞在型観光の事業を検討し、実施を試みる。
- ・プラットフォームに参加しているステイクホルダーのつながりを発展させ、先進事例の教訓を活かした地域循環共生圏づくりを検討する。

【中間支援団体】

- ・サスティナブルツーリズムを取り入れた滞在型観光の事業の実装に向けて、円滑な遂行を支援する。
- ・大学教育として中間支援者の育成プログラムを検討する。

■ 2024年度末の状態目標と振り返り

【活動団体】

- ・キックオフイベント開催による仲間・チームを作り、地域課題の共有とあり方、活動目標の練り上げを実施
- ・大学生向けの教育体験・滞在を実施し、当該地域の産業・生活・教育の実情を知ってもらい、豊富町の課題点や既存資源の活用方法を新たな目線から助言、明らかにして行く事により、地域づくりのキープポイントを発掘し今後の地域づくりに発展させる。

【中間支援団体】

- ・キックオフイベントを開催し、ファシリテーター役として地域課題の洗い出しや解決策の議論、今後の活動計画の共有等の議論を円滑遂行

中間支援主体の支援・取組計画

■ 中間支援主体の1年間の支援目標

活動団体の豊富町観光協会は、適切な支援を得られると、異分野の教育・子育ての要素を絡めて滞在型観光の活動を広げていく可能性を有している。今年度も「ワクワクとよみ未来会議」や「大学生の地域インターンシップ」を継続し、ワークショップや打合せなどで、住民や関係者と意見交換・交流して、地域で解決すべき課題や要望を抽出し、企画立案を支援していく。1年後には、地域活動への参画や交流等を行う「サステナブルツーリズムを取り入れた滞在型観光」の事業を具体化させることを目指す。

■ 支援計画

	活動団体の取組における現状と課題 (見立て)	課題を解決するために必要と考える手段 (打ち手)
①	本事業に関わる担い手は町内に「点の状態」として多数存在している。課題は「面の状態」に拡張するための仲間づくりであり、まずは率直な意見交換の場を設定し、プラットフォームを形成していくことが必要である。	昨年度は、「ワクワクとよみ未来会議」を4回開催し、今年度も継続していく。大学教員などが学習会やワークショップで必要な知識や情報を専門的な知見を提供する。また、「未来会議」では、参加者間の意見交換を円滑に進めるために、ファシリテートを行う。
②	地域には大学がないため、日常で大学生がいない。地域社会が、若者の発想や感性、よそ者の意見を取り入れることで、新たな刺激を生む可能性がある。とくに、大学生が交流することで、子どもたちの視野が広がり、物事の発想が豊かになる可能性がある。	昨年度と同様に、夏休みの時期に大学生の「地域インターンシップ」を実施していく。豊富町の主産業・生活・教育について体験し、若者の感性を活かした多種多様な観点からアイデアを生み出し、地域づくりへ活かしていく。
③	地域活動への参画や交流等を行う「サステナブルツーリズムを取り入れた滞在型観光」の事業のタネを具体化し、ローカルSDGs事業を創出する必要がある。	昨年度の「ワクワクとよみ未来会議」で出されたアイデアを活かして、5/17に「テントサウナイベント」を開催する。地域の主体と大学生が協働することで、新たな事業のタネを見つけ、事業の創出につなげていく。